

幕末、ペリーがほめた鞆の浦特産

保命酒 海外に売り込め

福山商議所が来月、仏韓訪問

幕末に來航した米国のペリーがほめたとされる福山市・鞆ともの浦特産の「保命酒」。この健康薬味酒を海外に売り込もうと、福山商工会議所の視察団が11月4日から9日間、フランスと韓国を訪れる。百貨店やホテル、酒店での試飲・試食会でアピール。来年から本格化させる海外展開へのノウハウを得たい考えだ。

中小企業が連携して、優れた製と、リキユール文化の伝統がある品の海外展開に取り組む費用を国 フランスと韓国に狙いを定めた。が補助する「JAPANブランド 視察団は同市鞆町の保命酒メーカー育成支援事業」(中小企業庁)に カー4社のトップと会議所、地元福山商工会議所が申請。6月に認められた。

海外市場の実情を勉強しよう 4社の保命酒のほか、保命酒を使



福山商工会議所視察団が仏韓に持参する保命酒とアメ、菓子などの関連商品＝福山市御船町1丁目

試飲会開き アピール

ったあめ、ケーキ、まんじゅうなど約20商品を持参する。両国の関係者に味わってもらい、どういものが売れそうか探る。

保命酒の国内での知名度はまだ低い。だが、先に海外で名を上げて国内に波及させ、ブレイクしたケースもあり、海外での知名度アップを狙う。個々には米国やアジアへの販売を試みたケースはあるが、業界としての海外展開は今回が初めてになるという。

同研究会の中島基晴会長(44)は「両国のマーケットをつぶさに見て、来年度からの本格的な海外市場開拓につなげたい」と話す。

保命酒は十数種の草根木皮をつけた高価な健康薬味酒で、江戸時代に開発された。幕府の將軍にも献上された。静岡県下田市の古文書には、幕府に開国を迫った米ペリーを「保命酒と菓子でもてなした」との記述がある。このほか、朝鮮通信使や儒学者の頼山陽、1万円札でおなじみの福沢諭吉らも愛飲したと言われている。

(野口拓朗)